

— 経営理念 —

ともに挑み ともに繋ぐ

常にお客様目線で上質な価値を創出する

— 行動指針 —

私たちは、全ての仲間と手を取り合い、
創出する喜びを分かち合います。

私たちは、失敗を恐れず、
常にチャレンジャーであり続けます。

私たちは、お客様と誠実に向き合い、
信頼される存在を目指します。

私たちは、こだわりと思いやりをもって、
心地良さの実現を追求します。

私たちは、法とその精神を守り、
安心・安全なものづくりを約束します。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月に開催

基準日	定時株主総会の議決権	3月31日
	期末配当金	3月31日
	中間配当金	9月30日

公告方法 電子公告
 公告掲載URL <http://www.fkkasei.co.jp>
 ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告
 できない場合は、日本経済新聞

単元株式数 100株

株主名簿管理人 三井住友信託銀行株式会社
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 0120-782-031 (フリーダイヤル)



Interim Business Report

第111期 中間報告書

2021年4月1日～2021年9月30日

藤倉化成株式会社



To Our Shareholders

株主の皆さまへ

株主の皆さまには格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社第111期中間期（2021年4月1日から2021年9月30日まで）の営業概況等につきご報告申し上げます。

2021年12月

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルスワクチンの接種が進む一方で、変異型ウイルスの感染拡大や半導体の供給不足等の影響を大きく受けており、今後も予断を許さない状況が続くものと思われます。海外経済におきましても、新型コロナウイルス感染症の再拡大によるロックダウンや半導体の供給不足等による工場の停止、海上輸送や通関の遅延による物流混乱などもあり先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は250億32百万円（前年同期比17.6%増）となり、営業利益は12億99百万円（前年同四半期は営業損失3億66百万円）、経常利益は13億61百万円（前年同四半期は経常損失1億41百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は9億14百万円（前年同四半期は四半期純損失3億8百万円）となりました。

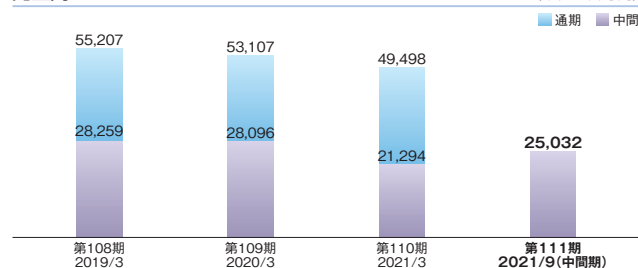
株主の皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **加藤 大輔**

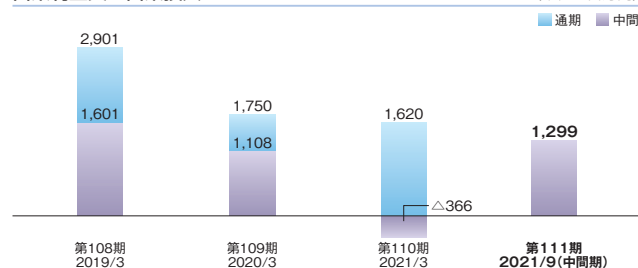
Financial Highlights

連結財務ハイライト

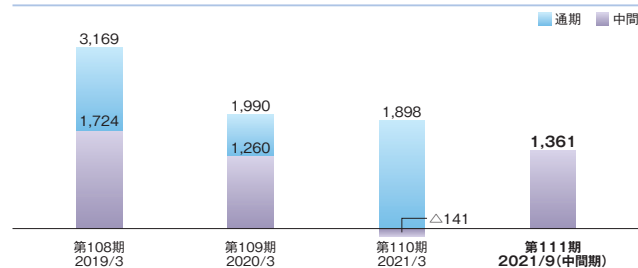
売上高 (単位：百万円)



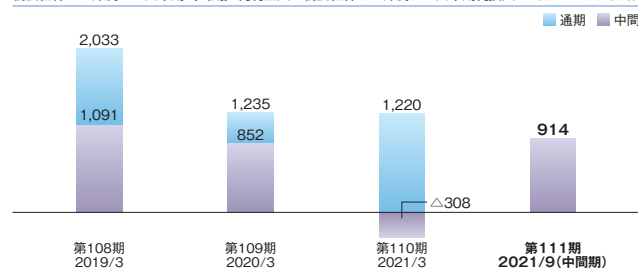
営業利益又は営業損失 (単位：百万円)



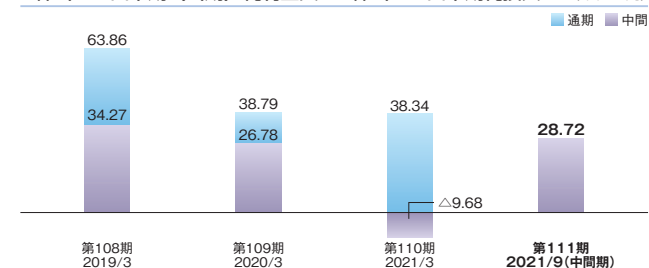
経常利益又は経常損失 (単位：百万円)



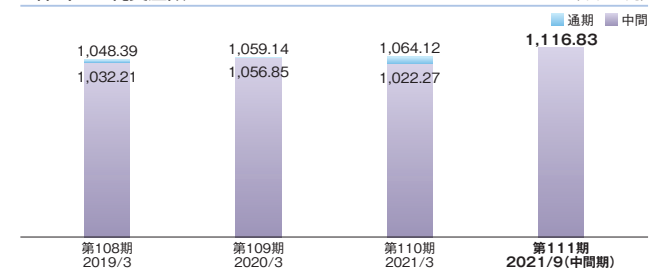
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (単位：百万円)



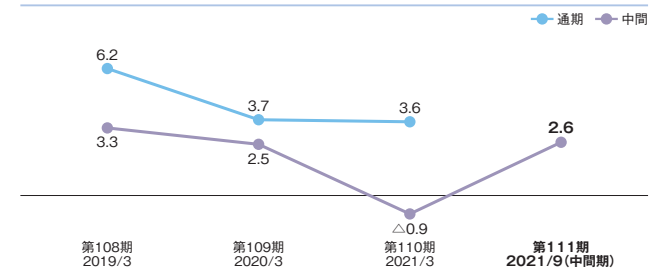
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失 (単位：円)



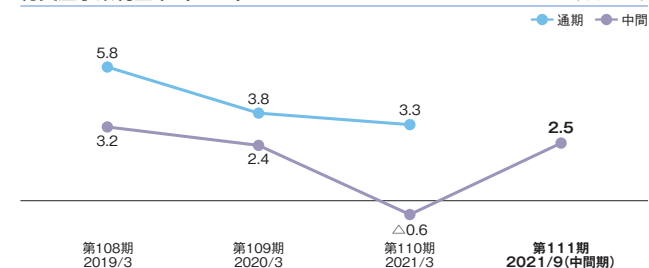
1株当たり純資産額 (単位：円)



自己資本利益率 (ROE) (単位：%)



総資産事業利益率 (ROA) (単位：%)



Segment Review

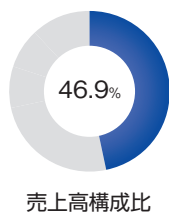
(単位：百万円)

コーティング事業



主要分野

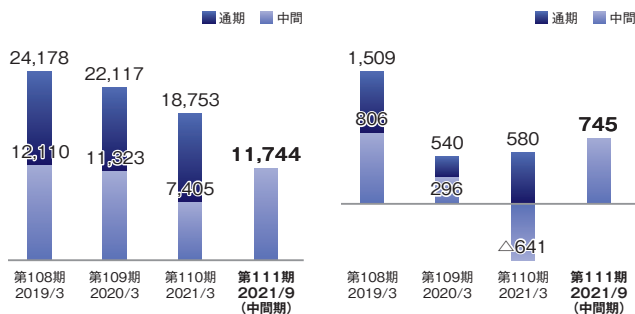
自動車内装分野、自動車外装分野、
自動車電装部品分野、
容器関連分野、携帯電話分野、
家電分野、ホビー分野、
農業資材分野



プラスチック用コーティング材（『レックラック』・『フジハード』など）を取扱うコーティング部門におきましては、8月以降、半導体の供給不足やコロナ禍によるASEANサプライチェーン断絶の影響から自動車生産台数の減少に伴い、主力の自動車向け製品の需要は低調に推移いたしました。非自動車分野では、化粧品市場において流通在庫の減少やワクチン接種の広がりに伴うマスク解消への動き等により、化粧品容器向け製品の販売が堅調に推移いたしました。この結果、売上高は117億44百万円（前年同期比58.6%増）となり、営業利益は7億45百万円（前年同四半期は営業損失6億41百万円）となりました。

売上高
117億44百万円
(前年同期比58.6%増)

営業利益
7億45百万円
(前年同期比 -)

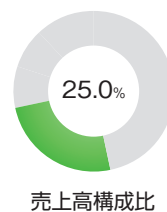


塗料事業



主要分野

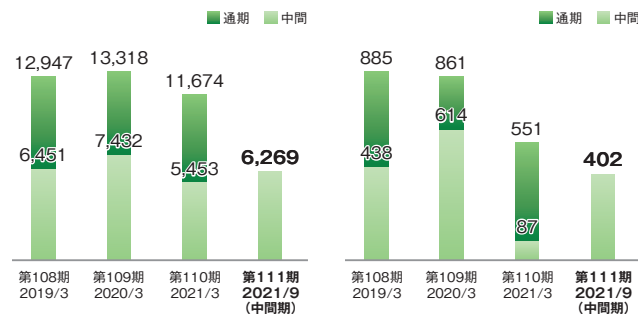
外装建材分野、
内装建材分野、
エクステリア材分野、
住宅設備分野



建築用塗料を取扱う塗料部門におきましては、夏季の長雨の影響等を受けて工事件数が減少したこと等により、リフォーム向け製品の需要が予測に比べ低調に推移いたしました。この結果、売上高は62億69百万円（同15.0%増）となり、営業利益は4億2百万円（同361.5%増）となりました。

売上高
62億69百万円
(前年同期比15.0%増)

営業利益
4億2百万円
(前年同期比361.5%増)

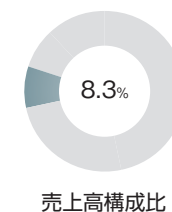


電子材料事業



主要分野

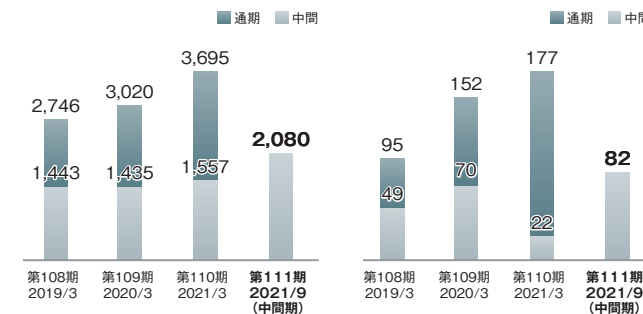
通信機器分野、
表示体分野、
家電分野、
車載用電子機器分野、
OA機器分野



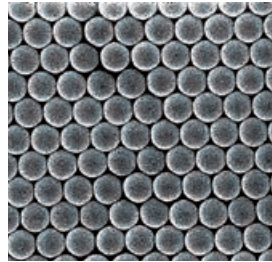
導電性ペースト材（『ドータイト』）などを取扱う電子材料部門におきましては、車載、通信、パソコン等の電子部品向けの接着剤や基板用銀ペーストが好調に推移いたしました。また、巣ごもり需要を受け、パソコン向けのフィルム回路用の銀・粘着剤が堅調に推移いたしました。この結果、売上高は20億80百万円（同33.6%増）となり、営業利益は82百万円（同271.2%増）となりました。

売上高
20億80百万円
(前年同期比33.6%増)

営業利益
82百万円
(前年同期比271.2%増)



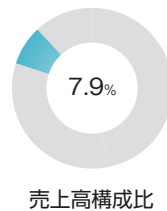
化成品事業



主要分野

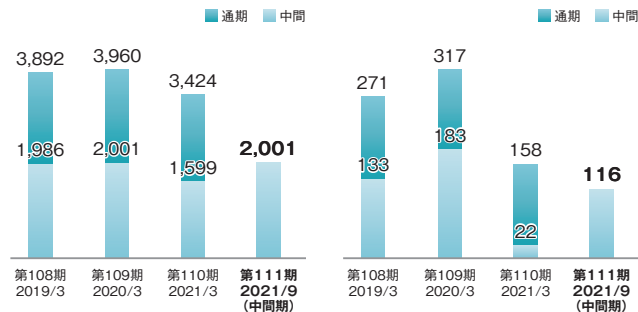
トナー用樹脂分野、
電荷制御剤分野、粘・接着剤分野、
ディスプレイデバイス分野、
メディカル材料分野、
電子部品関連分野

トナー用レジン、樹脂ベース（『アクリルベース』）やメディカル材料などを取扱う化成品部門におきましては、前期の落ち込みからトナー市場は回復傾向にあり、パソコンをはじめとするエレクトロニクス市場の需要が高水準に推移いたしました。また、粘着剤分野においては、エレクトロニクス分野での新規材料のトリブロックポリマーや壁紙用粘着剤等が売上増に貢献いたしました。メディカル材料分野では、インド・ベトナムでの拡販に成果があったものの、中国・EU市場での拡販が足踏み状態となり、低調に推移いたしました。この結果、売上高は20億1百万円（同25.1%増）となり、営業利益は1億16百万円（同438.9%増）となりました。



売上高
20億1百万円
(前年同期比25.1%増)

営業利益
1億16百万円
(前年同期比438.9%増)



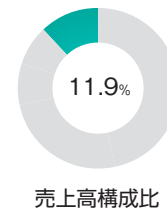
合成樹脂事業



主要分野

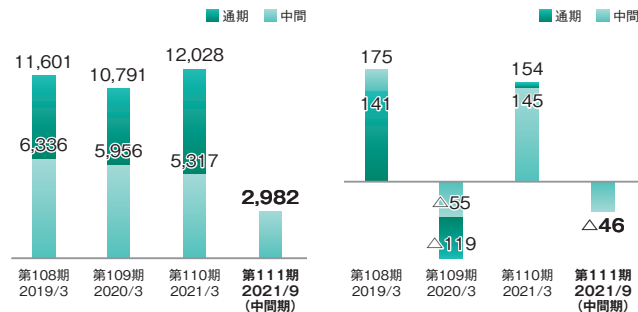
高性能光学材料分野、
工業用銘板分野、
産業資材分野

子会社藤光樹脂株式会社などが取扱うアクリル樹脂の原材料・加工品の販売におきましては、飛沫防止関連製品は需要が一服したこともあり、販売が低調に推移いたしました。また、半導体の供給不足等により、車載向け製品の需要が低調に推移いたしました。この結果、売上高は29億82百万円（同43.9%減）となり、営業損失は46百万円（前年同四半期は営業利益1億45百万円）となりました。



売上高
29億82百万円
(前年同期比43.9%減)

営業損失
46百万円
(前年同期比 -)



会社概要 (2021年9月30日現在)

会社名 藤倉化成株式会社
本店所在地 東京都板橋区蓮根三丁目20番7号
本社事務所 東京都港区芝公園二丁目6番15号
設立 1938年9月22日
資本金 53億5千2百万円
従業員数 連結 1,278名
単体 444名
連結子会社数 国内 4社 海外 15社
ホームページ <http://www.fkkasei.co.jp>

株式の状況 (2021年9月30日現在)

発行可能株式総数 84,000,000株
発行済株式の総数 32,716,878株
株主数 3,668名

TOPIC

『技術戦略推進室』の新設

当社は事業部間の協業による新商品開発と、新マーケットの創出を成長エンジンと位置付け、2020年4月に社長直轄の『技術戦略推進室』を新設いたしました。

技術戦略推進室では各事業部の技術部長を中心にアイデアやテーマの討議を重ね、第1弾として15のテーマに絞り込みを行いました。事業部が持つ強みと協業できる土壌作りを目指し、事業部間に横串を通す開発体制の整備を進めております。

今後は既存事業の研究開発に加え、全社的視点による強みに特化した新商品開発の推進や新マーケットの創出に取り組んでまいります。